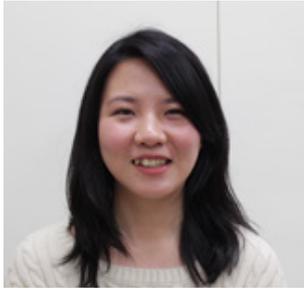


青山学院大学 社会情報学部

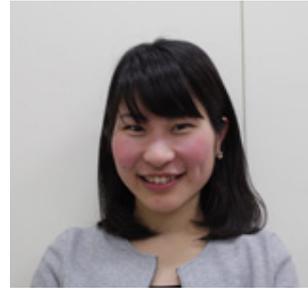
「社会」×「情報」×「人間」。異なる3つの要素を効果的に融合させた思考や手法によって、世の中に存在するさまざまな問題解決に貢献していきます。文系の豊かな感性と理系の論理的思考の両方を鍛えながら、あらゆる場面、業界において「情報」を効果的に扱えるプロフェッショナルを目指せます。



■大学生
かずもと
楮本直子さん



■先生
稲積宏誠先生



■卒業生
田中咲季さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

社会情報学部で学ぶことや、この分野の特徴などについて教えてください。



■先生

本学部の学びの大きなテーマは、現代社会におけるさまざまな問題解決に貢献できる「考え方」と「手段」の融合を追求していくことです。社会で起きている問題の多くは、一面的なものでは決してありません。いくつもの要素や事実が複雑に関わることも少なくありません。

例えば「大災害に備えるにはどうするか？」という課題があった場合、メンタルな部分と情報インフラ的な課題をまず見つけることができます。

メンタルは「住民のつながりが強ければ有事の時に助けあえるのでは？そのため何をするべきなのか？コミュニティ形成をどう実現していけば良いのか？」という人に関わる課題の発見とそれを

解消するための手立ての考察です。もうひとつの情報インフラは、災害で離れ離れになってしまった人々がソーシャルネットワークの技術で連絡を取りあうには？といったアプローチです。

もっと視野を広げていくと、災害時のリスクを保険や保障で解消する上で必要な仕組みはなんであるかなど、ひとつの問題・出来事に対して、多面的な視点で向き合っていくのが、この学問のユニークかつ有意義なところでもあります。

■卒業生

わたしは、いろいろな観点で物事をとらえ、課題やそこに隠されている別の事実を切り出していくのが楽しかったですね。どんどん思考が深まっていくことに面白さがある学問だと思います。

■先生

そうだね。どんどん広がっていくのが、この分野の特徴ともいえそうだね。先ほど申し上げたメンタルに関しては文系の「社会科学」や「人間科学」の要素があり、情報インフラで言うと理系の「情報科学」的な部分が色濃くなる。その他にも経済といった知識が必要となる場合もあります。つまり文系・理系に分類せず、総合的な視点で物事をとらえていくという学問なのですね。「社会」と「情報」、そして「人間」が融合してできること、変わること、変えていくことを探求していくわけです。

■大学生

社会と情報と人間・・・文字通り学部名がそのまま学問の内容になっていますよね。

■先生

そう言われるとそうだね。面白いところに目をつきましたね。そういった着想も実は社会情報学部では大切なことです。授業を受けているひとつの成果かな？感心しました。

■大学生

ありがとうございます。たぶん授業の内容が楽しかったからだと思います（笑）。

「社会」×「情報」×「人間」。その関係性あるいは融合を示す例はありますか？

■先生

わかりました。それではコンピューターを使った例をご紹介します。言葉や文章をコンピューターで機械的に処理する「自然言語処理」という分野があるのですが、これを応用すると、「文章の添削（文字や文章の間違いを正すこと）」をコンピューターに任せてしまおうということも可能です。普通、人間が文章の添削をするとき、文章を読んで、内容を把握し、間違いを見つけていきますよね。

■大学生

そうですね。何度も読み直して、修正をしつつまとめていきますよね。

■先生

すごく簡単にやっているようで、実はその作業は、人間の脳が勝手に働いてくれるからできているん

ですよ。例えば、文章の中の表現ひとつについても、「こう表現しているから、次はこう展開するだろう」という「予測」や、この文脈でこの文字はおかしいだろうという「疑問を出すこと」を、瞬時に脳がやってくれているのです。

■卒業生

なるほど。ものすごいスピードで脳が作業してくれるんですね。

■先生

そういった人間の脳がもっている能力や人間だからできる感覚的なものをコンピュータに学ばせ、先ほどの添削を完全自動化でできるようにすることも「社会」×「情報」×「人間」のひとつの形といえるのではないのでしょうか。

人工知能のようなものに近いですか？まるで SF のような世界ですね。



■先生

極めて近いと思います。先ほど紹介した文章の「予測」や「疑問を出すこと」は、コンピュータに対して一定のルールやロジックを教えてあげれば、決して不可能なことではないでしょう。これは人間も同じですよ。見たもの、聞いたものに、ルールやロジックにあるいは自分の知っていることや新たな事実を付け加えながら、「あっそうか！だから、こういうことなんだね！」という風に理解していくようなことですね。

■卒業生

コンピュータと人間の感覚の融合。それが具体的なものとなって、社会に広がっていくと、面白いことや、便利なことがどんどん生まれてきそうですね。

■先生

ルールとロジックを学ばせるやり方の一方で、今から力を入れたいのは、もっと感覚的なもの。「ひらめき」と言えばいいでしょうか。いろいろな状況を見て、その中で何が大切とか、そこに潜んでいる規則性みたいなものは何かを探っていくことは、理論でもできるのだけど、やはりそこは人の潜在能力に勝るものはないと思っています。だから、人の発想力みたいなものを、コンピュータをはじめとした、さまざまな領域に生かすことも学びのテーマのひとつとしてあります。

そのためには、人も磨かなきゃいけない。技術も磨かなきゃいけない。この学問はやればやるほど、人間としての知識や経験が深まり、同時にコンピュータや情報技術についても習得できる意義ある分野だと思います。

とても広がりを感じる学問ですね。一言でこの学問の魅力を言い表すとしたらなんというのでしょうか？

■先生

ひとことか・・・難しいなあ（笑）。

■卒業生

研究対象もすごく広いもので、なかなかひとことでは表現できそうにないかもしれません。

■先生

先ほどお話した「自然言語処理」のエピソードは、あくまでアウトプットのひとつにすぎません。その他の研究対象の全てに共通しているのは「情報の高度な活用」というキーワードですね。あらゆる情報が世の中にあるわけですが、そこから必要な情報を抜き出す。あるいは、最も大切な情報を見出す。そして、その情報を別の方法で表現したり、役立てたり。医学部の学生は医者を目指す、経済学部の学生は経済の原理原則を学ぶ。そんな観点から考えると、私たちの学部では「情報を扱うプロフェッショナル」になるための知識と経験を積める学部といえます。

●大学生活について

お二人がこの学部を選んだ理由を教えてください。

■大学生

理系や文系に区別されない学部で、両方の知識を持った人たちと会える環境に進みたいと思っていました。就職先も理系・文系の両方の業界に可能性が持てるところがこの学部の魅力の一つだと思います。

大学には、いろいろなバックグラウンドというか、様々な考え方を持っている人がいると思いますが、社会情報学部はとりわけ多様性に富んでいると思います。例えば、パソコンなどには一切触れず、統計の知識で常にニュースをチェックしているとか、株の動きを見ているだとか。ユニークな学生は多いと思いますよ。

■卒業生

わたしも少し似ていますね。数学は好きだったけれど理科系、物理や化学には強い興味を持てなかった。いろいろな大学を検討する中で、文理融合に惹かれて決めました。

それでは印象に残っている授業や研究内容について教えていただけますか。

■大学生

あるお菓子をテーマに沿って分類する授業が楽しかったですね。

■先生

情報の分類の基礎を学ぶ授業だね。

■大学生

30種類くらいあるチョコレートが題材になりました。その30種類それぞれに印象度と呼ばれるステータスが設定されています。印象度は「大人っぽい」「季節感がある」「あっさりしている」といったように、いろいろな印象が数値化されたもので、30種類のチョコそれぞれに持っている印象度はさまざまですが、細かくみていくと、近い印象度で構成されているものが見えてくるのです。

■先生

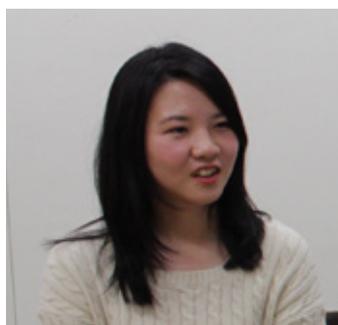
クラスタリングという概念です。同じような条件・要素のものを集めて対象をグルーピングし、全体の傾向を見ていくようなものです。

■大学生

グルーピングが済んだら、次の仮説を立てていきます。「こういう風にグルーピングされているんだから、このAというチョコはこういう人たち向き」とか「この季節だったらBとCのチョコを売出すと良いのでは」という風にです。グルーピングの結果から次の展開を考える。これも情報の高度な活用の一貫だと思っているのですが、そうですね、先生？

■先生

そのとおりです。チョコの他にも居酒屋メニューのグルーピングもしたね。そういったわかりやすい題材で情報の扱い方を学んでいくのも本学部の特徴といえるでしょう。



■大学生

英語で最終的にプレゼンテーションを行うイングリッシュ・プレゼンテーションという授業も、良くも悪くも印象的です。授業では基本的なプレゼンテーションの仕方を学び、課題として毎週3つくらい英語の論文を読み、それを要約したものを先生に提出していました。プレゼンテーションの内容は自分で決めて良いので、学生一人ひとりが全く違うテーマについてプレゼンテーションを行います。各々、自分は理解しているけれど、聞く側は全く何も知らないわけです。ほぼ知識ゼロのメンバーにもわかるようにプレゼンテーションをするのは非常に緊張しましたが、今振り返ってみると、良い体験ができたなと感じています。

特に力が身についたと感じる授業について教えてください

■大学生

「ヒューマンインタフェース」という授業です。一生の思い出になると感じています。

■卒業生

どんなことをしたのですか？一生の思い出とは、楽しかったということ？それともかなり大変だった

たってことですか？

■大学生

もちろん前者ですよ（笑）。情報と人の間を繋ぐ物体をインタフェースと呼びます。例えばタッチパネルなんかがそうですね。私たちくらいの世代だとスマートフォンとかにかなり慣れているので、お店でタッチパネルがあっても問題なく使えますが、少し年配の方だとそうともいえない。そこで着想したのが、あらゆる世代が直感的に使えるインタフェースの改善というテーマでした。

まずは現状把握ということで、タッチパネル式のお寿司屋さんにメンバーと一緒にいき、ボタンの位置は？注文するのに何回タッチをしなければならないか？などを分析していきました。時には、メンバーのお母さんにタッチパネルがある居酒屋さんに行ってもらってその感想を聞くなど、あらゆる情報を集約させていきました。お料理を頼む画面からドリンクの画面に直接いけたら、注文数が増えるのではないか？ボタンの間隔に工夫が必要ではないか？など、さまざまな観点から、理想のインタフェースのあり方を考え、それをプレゼンテーションしていったのです。

■卒業生

日常のなかにある課題解決という意味ではとても面白そうですね。美味しいものをいっぱい食べられたようですし。お腹いっぱいになって研究どころではなかったのでは（笑）。

■先生

彼女たちがお寿司屋さんにいったように、実際の現場に行ってみるとたくさんありますよね。実際にどのように情報が取り扱われているかを知る上でとても貴重な体験をしたと思いますよ。

その他にも「情報の高度な活用」に関連する授業などはありますか？

■先生

情報という切り口だけではないのですが、「合理的思考と社会行動」という授業はコンセプトとしてとても良いものだと思います。専門分野の異なる教員が一堂に会し、例えば「原発はどうあるべきか？」というテーマで、統計学、心理学、経済学、それぞれの専門的な立場から講義を行い、学生同士でディスカッションをします。これにより、多角的な視点から問題を理解する力を磨き、より深く考える力も養えます。

統計的に見てリスク要因はどのような風に評価できるか。社会心理の観点から原発ってどうなのか。エネルギー経済の観点から原発はどうあるべきか？などを、三者三様で持論を展開していくんです。その後、ではこの話を聞いて、自分たちはどのような風に判断し、評価していこうかっていう所を、学生も含めて議論するものです。いろいろな考え方や切り口に触れる体験は情報社会に関わる上で、とても大切なことですからこの取り組みは今後も積極的に行っていく予定です。

■卒業生

私もグループワークは何種類か経験していますね。取り組んだのはキャンパスがある相模原市の活性化のためには、何をすれば良いかというものです。グループ五人くらいで取り組んだんですけど、最終的に相模原市の名産をリリースすることに決定。相模原市の名産をモチーフにしたスイーツを考案、

デザインや売り方、価格設定、どこのお店で売ろう、販路はこうしよう。など、実際に販売ができるレベルで、企画をたてていきました。

学びを通じて得られる専門性や力について、先生のお考えをお聞かせください。



■先生

社会で注目されているテーマに、何人かのグループで取り組むものを比較的多く授業に取り入れています。先ほどの彼女たちの例については、例えば数学も統計も学ばせるんですね。それから、プログラミングの基礎的な事もやらせるんですよ。それらの机上で学んでいることが本当にどう活かされるのかを実感するのは実は難しい。

でも、彼女たちのように学校から外に出て、本当の現場を知り多くの体験を通じて理解を深めていくことで、知識は自分のものになっているのではないかと考えています。

■大学生

たくさんの体験はいまだに覚えていますからね。ほんとうに先生のおっしゃるとおりだと思います。

■先生

さきほどのコラボレーション型の授業も学生たちに、心理や経済だけでは計り知れないものがあるということを経験してもらいたいという狙いがあります。学びは一面的ではないということです。

●就職活動、仕事について

それでは現在のお仕事について教えてください

■卒業生

日本システム技術株式会社という会社で、データ分析の仕事に携わっています。あるクライアントに常駐させて頂いてまして、そこで扱っているデータを分析してアウトプット、資料にしてクライアントの担当者に提出するのが主な業務です。

どのようなデータを扱っているのですか？

■卒業生

POS データといって、お店のレジで何が何個売れたかというデータですね。例えばある食品メーカーの商品の場合、3個入り、8個入り、16個入りのラインナップがあるのですが、それぞれをどのような人が買っているかを分析していくのです。データの集め方は、企業の機密情報でもあるので、こ

ここではお話できませんが、消費者の属性や家族構成など細かなところまでわかる仕組みがあるようです。

データからどのようなことを分析していくのですか？

■卒業生

すごくわかりやすいのは、16 個入の大容量を買っている人は子育て世代や、三十代・四十代の主婦。単純に消費量が多いような年代によく買われています。その逆で3 個入は、年代が上の七十代以上のお年寄りの方が買っていきます。そういったデータをパワーポイントの資料でわかりやく整理して、クライアントに納品するという役割ですね。

マーケティングの要素もありそうですね。

■卒業生

そうですね。商品の売れ方から消費者の心理を考え、消費傾向といったものを、プラスアルファの情報として提出資料に書き添えたりもしています。単純なデータ集計ではないですね。案件によってすごく大きなものもあり、その場合は3、4人でチームを組んで長期にわたって分析を進めていきます。

■大学生

データの扱い方に長けている先輩ですから、とても的確な資料なんでしょうね。

■卒業生

そんなことはないですよ（笑）。でも、書き添えた情報、つまり私の視点からの分析や考察が、なんらかの商品開発や店舗展開の改善において何か役立つことがあればうれしいですね。

■先生

商品に関するデータ解析以外にはどんなことをやっているの？

■卒業生

店舗分析を行うこともあります。売上に伸び悩むあるスーパーに関して、売上が伸びない要因は何かを、他のスーパーと比較して探し当てます。また、その売上を伸ばすためにはどんな施策をすれば良いのかを調査するのは、難しい内容だからこそやりがいを持って取り組みます。

先生に質問です。学生たちの卒業後の活躍についてどうお考えですか？

■先生

業界の範囲というよりも、就職後の「活躍の幅や質」という観点でお話します。社会情報学部の卒業生は、必ずしも情報分野に関心なかった学生でも「情報に強いね」と言われるらしいのです。数学や統計は必修で、プログラミングもやっているので、当然といえば当然なのですが、そこは本学部で4年間学んだことのひとつの成果ともいえるでしょう。

どんな業界に進んでいるのでしょうか？

■先生

大学全体で見ていくと学部ごとにそんなに大きなジャンルの違いはないと思います。あえて言うなら、我々の学部はいわゆる文系タイプの企業と同様に、技術系の就職が多いし、理系学生が多く就職する企業では、営業系の就職が多いですね。公務員や数学の教員もいますし、アナウンサーもいますね。どちらかと言うと、大学で身につけた知識を自分の個性とリンクさせながら、進路を決めている学生が目立ちます。自立心をちゃんと持って、先に進んでいるというか。

●5年後に向けて

これから先、どんなことにチャレンジをしようと思っていますか？

■先生

青山学院大学だからできる「社会情報学部ならではの研究や教育」をもう少し全面に出せるようになっていきたいですね。先ほど申し上げたディスカッション式の授業なんかもそうですね。もっと有意義でユニークな学びのスタイルを追求したいと思います。

■卒業生

私は3歳の頃から、クラシックバレエをやっています。それをずっと続けつつ、今のお仕事にも全力投球していきます。もちろんこれから先も新しい何かに積極的にチャレンジしたいですね。海外に移住するとか、本を出版するとか。その時、興味のあることをどんどん突き詰めていきたいですね。



■大学生

就職先としてやはり情報系の企業に進みたいと思っています。企業にとって、データとか情報は絶対に必要なもの。今、学んでいることを、どんな形であってもいいので活かしつつ社会貢献ができれば良いなと思っています。もちろんその前に卒論を仕上げるのが最優先なんですけどね。

●高校生へのアドバイス

高校生に受験勉強のコツなどがあれば教えてください。

■卒業生

私は電車の中でひたすら暗記していました、電車の中ってもの凄く暗記できるんですよ。

■先生

電車の中が集中できるってこと？

■卒業生

次の駅までに絶対これ覚えるみたいな。英単語を覚える時とかやりませんでした？大学の定期試験前とか。バレエのレッスンまでに何ページまで終わらせるというようなことをやっていました。

■先生

田中さんは自分で目標設定やターゲットを決めるという習慣があるんだろうね。実際、そのやり方はとても合理的。長期の目標だと絶対に中だるみをしてくるから、サブゴールを設けるとするのはセオリーとして絶対あると思います。大きな目標だと抽象的すぎて達成がしにくい。でも、ある程度具体的なものが見えると、そこまでだったら集中力が途切れることなく頑張れるからね。

■大学生

英語力を鍛えておくといいでしょうね。私は高校の時に少しだけ海外研修の経験があるのですが、17日間のとても短い期間だったので、結果的に旅行みたいになっちゃって（笑）。もし余裕があれば高校時代に留学しておくのと大学に入ってからいろいろ役立つかもしれません。

大学や学部の魅力を最後に語ってください。

■大学生

私は「キャンパスツアーボランティア」のサークル活動をしています。オープンキャンパスの際、高校生のみなさんを案内するのですが、この活動は例年好評との声が届いています。大学生の生活の仕方とか、キャンパスの好きなおところなどメンバーによって違うお話ができると思います。それくらい魅力があります（笑）。聞いてみたいことがある方は是非ツアーに参加してみてください。

■卒業生

先生方も学生も本当に個性溢れる人が多いです。たくさんの刺激を受けられて、楽しいと思います。いろいろな人に出会いたければ社会情報学部には是非来てください（笑）。

■先生

理系っぽいこと、物事を抽象化して考えること、さまざまな現象を深く観察できることなどに全然抵抗感がないのであれば、「みんなおいで」と言いたいですね。別に理系のセンスというのは、研究室の中で機械と実験装置ということだけを対象に役立つものだけじゃないんです。人文社会科学系の分

野にこそただ感覚で判断するのではなく、きちんとした裏付けや理論、実証に基づいて考えることのできる理系の学びというのが役立つものだと思っています。その意味は大学生活を通じて、自分自身で気づくことができるはずです。

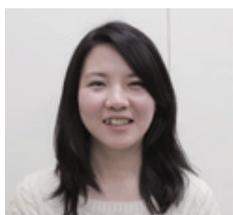
●インタビューに答えてくれた方々



■先生
稲積宏誠先生



■卒業生
田中咲季さん



■大学生
楳本直子さん